

「日本企業 29 社 日米で 7 割占める図式変わらず 最も革新的企業・機関トップ 100」

米国の学術・特許情報調査・コンサルティング企業「クラリベイト・アナリティクス」は 2 月 24 日、保有する特許の評価から最も革新的とみなされる世界の 100 企業・研究機関を「Top 100 グローバル・イノベーター2021」として発表した。最も選出企業・研究機関数が多かったのは、米国で昨年から 2 社増えて 42 社・大学。一昨年 1 位で昨年米国に 1 位を奪い返された日本は昨年より 3 社減って 29 社となった。米国、日本の両国で 7 割を占める図式に変化はない。

3 位以下はこれまで同様、大きく引き離されている。国・地域別としては、台湾（5 社・研究機関）、韓国（5 社・大学）、中国（4 社・研究機関）、フランス（3 社）、ドイツ（3 社・研究機関）、スイス（3 社）、オランダ（2 社）カナダ、スウェーデン、フィンランド、英国それぞれ 1 社となっている。2019 年に国際特許出願数が 1 位になった中国からは、昨年に続き選出された華為技術（HUAWEI）、小米科技（Xiaomi）、騰訊（Tencent）の 3 社に加え、中国電信技術科学院（Chinese Academy of Telecommunications Technology）が、中国の研究機関では初めて選ばれた。

日本からは、以下の 29 社が選出された（英文社名のアルファベット順、右列は日本語の正式名称）。*は 10 年連続受賞企業（10 社）

AGC	AGC株式会社
Aisin Seiki	アイシン精機株式会社
Casio Computer	カシオ計算機株式会社
Daikin Industries	ダイキン工業株式会社
FujiFilm	富士フイルム株式会社
Fujitsu	富士通株式会社 *
Furukawa Electric	古河電気工業株式会社
Hitachi	株式会社日立製作所 *
Honda	本田技研工業株式会社 *
Kawasaki Heavy Industries	川崎重工業株式会社
Kobe Steel	株式会社神戸製鋼所
Komatsu	株式会社小松製作所
Mitsubishi Electric	三菱電機株式会社
Mitsubishi Heavy Industries	三菱重工業株式会社
NEC	日本電気株式会社 *
Nichia	日亜化学工業株式会社
Nippon Steel	日本製鉄株式会社
Nissan	日産自動車株式会社
NTT	日本電信電話株式会社 *
Omron	オムロン株式会社
Panasonic	パナソニック株式会社 *
Renesas Electronics	ルネサスエレクトロニクス株式会社
Shin-Etsu Chemical	信越化学工業株式会社 *
Sony	ソニー株式会社 *
TDK	TDK株式会社
Toshiba	株式会社東芝 *
Toyota	トヨタ自動車株式会社 *
Yaskawa Electric	株式会社安川電機
Yazaki	矢崎総業株式会社

(「Clarivate Top 100 Global Innovators 2021」 から)

その他の国/地域の受賞企業 71 社 (英文社名のアルファベット順)

##表は翻訳不要

3M	米国
ABB	スイス
Abbott	米国
Amazon	米国
AMD	米国
Analog Devices	米国
Apple	米国
Arm	英国
ASUS	台湾
AT&T	米国
BASF	ドイツ
Bayer	ドイツ
BD	米国
Blackberry	カナダ
Boeing	米国
BorgWarner	米国
Bose	米国
Boston Scientific	米国
Bristol Myers Squibb	米国
China Academy of Telecommunications Technology	中国
Cisco	米国
Corning	米国
Dolby Laboratories	米国
Dow	米国
Emerson	米国
Ericsson	スウェーデン
Facebook	米国
Foxconn	台湾
Fraunhofer-Gesellschaft	ドイツ
GE	米国
Google	米国
Honeywell	米国
HP	米国
Huawei	中国
Immersion	米国
ITRI	台湾
Intel	米国
Johnson & Johnson	米国
Johnson Controls	米国
KAIST	韓国
Kinpo Electronics	台湾
KLA Corporation	米国
LG Electronics	韓国
LS Electric	韓国
Medtronic	米国
Microchip Technology	米国
Microsoft	米国
Nike	米国
Nokia	フィンランド
NortonLifeLock	米国
Novartis	スイス
NXP Semiconductors	オランダ
Oracle	米国
Philips	オランダ
Qorvo	米国
Qualcomm	米国
Quanta Computer	台湾
Raytheon Technologies	米国
Roche	スイス
Saint-Gobain	フランス
Samsung Electronics	韓国
Schneider Electric	フランス
SK Telecom	韓国
TE Connectivity	米国
Tencent	中国
Texas Instruments	米国
Thales	フランス
University of California	米国
Xerox	米国
Xiaomi	中国
XiLinX	米国

（「Clarivate Top 100 Global Innovators 2021」から）

「Top 100 グローバル・イノベーター」は、保有する特許からイノベーションを起こす能力度合いを評価、上位 100 に入る企業や研究機関、大学を選んでいる。評価の対象は直近 5 年間に登録された特許で、登録された特許の数だけではなく、質をより重視しているのが特徴だ。特許に関わる新発明を年 100 件以上（合計 500 以上）出願している「数量」条件をまず満たすことが求められる。さらに、他社による後続の特許出願で何回それらの特許が引用されたかという「影響力」、出願された特許のうち登録された発明の数の割合をみる「成功率」と「グローバル性」を加えた四つの指標によって評価される。

「グローバル性」は、中国、欧州、日本、米国という四つの主要市場の特許庁に出願された発明の割合をみる。出願にはそれぞれ費用がかかることから、これによって企業や政府機関、大学が特許取得に資金投入を惜しんでいないかを判断している。Top 100 グローバル・イノベーターは毎年、発表され、今回が 10 回目。こうした選出法が妥当だとする根拠として、クラリベイト・アナリティクス社が挙げているのが、10 年連続で Top 100 グローバル・イノベーターを受賞した企業（28 社）と、2013 年または 2014 年に Top 100 グローバル・イノベーターから姿を消した企業（24 社）との間にみられる時価総額の大きな差。2014 年 10 月から 2020 年 10 月までの時価総額成長率を比較すると、連続受賞企業の伸びが顕著で 2020 年 10 月時点の時価総額は姿を消した企業の 2.5 倍という大きな差がついている。

一方、両グループの特許数は 2010 年から 10 年間、ほとんど差がみられない。革新性の強い企業は特許の数ではなく特許の質がすぐれていることが分かる、とクラリベイト・アナリティクス社は言っている。

今回、昨年から受賞企業・機関を増やしたのは、米国（40 社・大学→42 社・大学）、台湾（4 社→5 社・研究機関）、韓国（3 社→5 社・大学）、中国（3 社→4 社・研究機関）、英国（0→1 社）。中国電信技術科学院は、台湾の工業技術研究院（ITRI）、米国のカリフォルニア大学、ドイツのフラウンホーファー研究機構、韓国の KAIST と五つしか選ばれていない研究機関・大学の一つで、かつ唯一の初選出というのが目立つ。

「Top 100 グローバル・イノベーター2021」の国・地域別数

	Country	2020	2021
●	カナダ	1%	1%
●	中国	3%	4%
●	フィンランド	1%	1%
●	フランス	5%	3%
●	ドイツ	4%	3%
●	日本	32%	29%
●	オランダ	2%	2%
●	ロシア	1%	0%
●	韓国	3%	5%
●	スウェーデン	1%	1%
●	スイス	3%	3%
●	台湾	4%	5%
●	英国	0%	1%
●	米国	40%	42%

(「Clarivate Top 100 Global Innovators 2021」から)

分野別でみると、一番多いのはハードウェア・電子部品製造分野で昨年から 3 社増えて 21 社。続いて半導体が 2 社増えて 12 社、産業システムが 1 社減って 10 社、通信が昨年と変わらず 10 社、化学薬品・材料が 2 社減の 7 社、ソフトウェア・メディア・フィンテックが 1 社減の 7 社、自動車関連が 2 社増の 6 社、製薬が 1 社増の 6 社、エネルギー・電気が 1 社減の 4 社、医療・バイオテクノロジーが昨年と変わらず 4 社、航空宇宙工業・防衛が 1 社減の 3 社、複合企業、鉱業・金属がそれぞれ 1 社減の 2 社、消費財・食品が昨年と変わらず 1 社、残る五つが研究機関・大学となっている。

最も多かったハードウェア・電子部品製造と 2 位の半導体業界には、英国から唯一かつ初めて選出された半導体企業のアーム (Arm) のほか、台湾の金宝電子 (Kinpo Electronics)、華碩電腦 (ASUS) さらに米国の 3 社が初選出企業に名を連ねている。

もう一つクラリベイト・アナリティクス社が注目するのが、自動車関連業界の変化。昨

年はアイシン精機、本田技研工業、日産自動車、トヨタ自動車と日本企業が 4 社選ばれていたが、今年も 4 年ぶりに矢崎総業が入ったほか、米国のボルグワーナー (BorgWarner) が初選出された。両社が他社ブランドの製品を製造する企業ではなく大手部品提供企業であることから、両社の選出は自動車関連業界でもイノベーションの重要性が浮き彫りになったことを示している、とクラリベイト・アナリティクス社はみている。

日文 小岩井忠道 (JST 客観日本編集部)

関連サイト

「クラリベイト・アナリティクス」プレスリリース「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2021」

[第 10 回 「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター 2021」 - Clarivate](#)

クラリベイト・アナリティクス「Clarivate Top 100 Global Innovators 2021」

[Clarivate Top100 Global Innovators 2021 Report JP.pdf](#)